

平成 **27** 年度風水害夜間実動訓練
(平成 **27** 年 **6** 月 **20** 日(土)実施)

報 告 書

～地域における今後の住民避難対策の充実の一助として～

平成 **27** 年 **8** 月

大阪府危機管理室（災害対策課）

目 次

1. 訓練目的及び概要	・・・ P. 1
2. 各市・町の訓練内容	・・・ P. 2
3. 事前広報状況	・・・ P. 8
4. 訓練結果	・・・ P. 9
5. 今回の訓練の検証及び今後の対応	・・・ P. 14

<参考1> 住民アンケート結果（水平避難編）

<参考2> 住民アンケート結果（垂直避難編）

・本報告書は平成27年6月20日に府内5市・町と共同実施した風水害夜間実動訓練結果を参加いただいた住民や対象市町にお住いの住民の声(アンケート)も加え、大阪府危機管理室(災害対策課)の責任において総括・検証したものである。

・本検証結果を踏まえ、府民(住民)の安全確保に向け、大阪府としてより一層の災害対策の充実や災害対応の向上に努める。

・府内市町村においても、訓練実施市町村のみならず、全市町村において住民避難対策の参考とされ、今後の訓練企画や地域レベルでの対策・対応につなげていただければ幸いである。

1. 訓練目的及び概要

(1) 訓練の目的

昨年8月、広島市で夜間に発生した土砂災害を教訓として、府域の土砂災害危険箇所などにおける夜間の集中豪雨を想定して、大阪府と5市町が共同で夜間における風水害訓練を実施することにより、夜間の住民避難に関する課題を抽出し、より円滑な住民避難や応急災害対策への反映を図るとともに、府民が自らの身を守る行動の促進や意識の向上を図る。

(2) 実施日時

平成27年6月20日(土) 20:00～21:00

(3) 参加機関

大阪府;政策企画部危機管理室

都市整備部事業管理室、富田林土木事務所、鳳土木事務所、岸和田土木事務所
環境農林水産部南河内農と緑の総合事務所

市町村;岸和田市、貝塚市、和泉市、太子町、河南町

消 防;和泉市消防団第4分団

警 察;和泉警察署南横山駐在所

住 民;当該市町の地域住民

情報伝達訓練対象者 約 310,000人(上記5市町)

うち 実動訓練参加者 383人(岸和田市、和泉市、太子町、河南町)

(4) 気象想定

13:00 大阪府(南河内、泉州)に大雨・洪水注意報 発表

17:00 大阪府(南河内、泉州)に大雨警報(土砂災害、浸水害)及び洪水警報 発表

19:30 大雨に関する大阪府気象情報 第1号 今後1時間に80ミリ程度の雨の予想

19:45 5市町に「土砂災害警戒準備情報」発表

⇒ 「避難準備情報」発令

20:00 5市町に「土砂災害警戒準備情報」発表

⇒ 「避難勧告」発令

(5) 訓練態様

ア) 大阪府と市町、防災関係機関との災害情報の伝達訓練

イ) 市町によるエリアメールや防災行政無線を活用した、市町による避難勧告に基づく住民避難(屋内での垂直避難の励行含む)

ウ) 訓練後の住民アンケート調査などを含む検証

2. 各市・町の訓練内容

(1) 岸和田市

①訓練概要

- ア) 大阪府と市、防災関係機関との災害情報の伝達訓練
 - ・大阪府(水防本部)から市役所に対して土砂災害警戒情報を発表
 - ・市内の二級河川(牛滝川・春木川・津田川)が氾濫危険水位に到達の恐れ
- イ) 市によるエリアメール／緊急速報メールを活用した避難勧告に基づく住民避難
 - ・市内全域にエリアメール／緊急速報メールによる住民への避難勧告
 - ・夜間住民避難訓練の実施
 - 全戸対象の垂直避難訓練
 - 一時避難場所への水平避難訓練
- ウ) 訓練後アンケート調査などにより検証
 - ・訓練参加住民にアンケート調査を実施

②情報伝達訓練対象者数

全市民 約 20万人

③実動訓練参加者数

- ・垂直避難
 - 住民が自主的に実施
- ・水平避難
 - 6地区(上大沢、下大沢、牛滝、河合町3町会)の役員 35人

④訓練シナリオ

20:00 「土砂災害警戒準備情報」発表

⇒ 「避難勧告」発令

20:03 市内全域約 20 万人に避難勧告発令(エリアメール／緊急連絡メール)

⇒ 「垂直避難」

⇒ 6地区(上大沢、下大沢、牛滝、河合町3町会)の住民が安全な場所(一時避難場所)
へ水平避難

20:30 訓練終了



(2) 貝塚市

①訓練概要

- ア) 大阪府と市、防災関係機関との災害情報の伝達訓練
 - ・大阪府(水防本部)から市役所に対して土砂災害警戒情報を発表
 - ・市内の二級河川(津田川・近木川・見出川)が氾濫危険水位に到達の恐れ
- イ) 市によるエリアメール／緊急速報メールを活用した避難勧告に基づく住民避難
 - ・市内全域にエリアメール／緊急速報メールによる住民への避難勧告
 - ・夜間住民避難訓練の実施
 - 全戸対象の垂直避難訓練

②情報伝達訓練対象者数

全市民 約 9万人

③実動訓練参加者数

- ・垂直避難
 - 住民が自主的に実施

④訓練シナリオ

20:00 「土砂災害警戒準備情報」発表

⇒ 「避難勧告」発令

20:03 市内全域約 9 万人に避難勧告発令(エリアメール／緊急連絡メール)

⇒ 「垂直避難」

20:30 訓練終了

(表面)

(裏面)

(3) 和泉市

①訓練概要

- ア) 大阪府と市、防災関係機関との災害情報の伝達訓練
 - ・大阪府(水防本部)から市役所に対して土砂災害警戒情報を発表
 - ・和泉市より避難状況をO-DISにより報告。大阪府と情報共有を図る
- イ) 市による防災行政無線を活用した避難勧告に基づく住民避難
 - ・南横山校区3町会(父鬼町、大野町、側川地区)に防災行政無線による住民への避難勧告
 - ・夜間住民避難訓練の実施
 - 各地区の集合場所への水平避難訓練及び指定避難所まで車での集団移動訓練
- ウ) 訓練後アンケート調査などにより検証
 - ・訓練参加住民にアンケート調査を実施

②情報伝達訓練対象者数

南横山校区3町会(父鬼町、大野町、側川地区)住民 約 800人

③実動訓練参加者数

・水平避難訓練及び集団移動訓練 3町会の町会役員 89人

④訓練シナリオ

20:00 「土砂災害警戒準備情報」発表

⇒ 「避難勧告」発令

20:03 市内南横山校区(父鬼町、大野町、側川)住民約 **800** 人に避難勧告発令(防災行政無線)

⇒ 水平避難(父鬼町、大野町、側川住民)

各地区の集合場所(父鬼町会館、大野町会館、側川地区集合場所)へ集合。点呼確認の後、消防団・警察の誘導のもと、指定避難所まで車で移動

20:20 指定避難所(南部リージョンセンター)の開設

20:30 指定避難所(南部リージョンセンター)に到着

避難者の点呼、受入名簿の確認

20:45 市役所(災害対策本部)に避難者数の報告

20:50 O-DIS により大阪府に避難状況の報告

21:00 訓練終了



(4) 太子町

1) 避難協力施設での水平避難訓練

①訓練概要

- ア) 大阪府と町、防災関係機関との災害情報の伝達訓練
 - ・大阪府(水防本部)から町役場に対して土砂災害警戒情報を発表
 - ・太子町より避難状況をO-DISにより報告。大阪府と情報共有を図る
- イ) 町による防災行政無線を活用した避難勧告に基づく住民避難
 - ・東條、後屋、永田各地区に防災行政無線による住民への避難勧告
 - ・夜間住民避難訓練の実施
避難協力施設への水平避難訓練
- ウ) 訓練後アンケート調査などにより検証
 - ・訓練参加住民にアンケート調査を実施

②情報伝達訓練対象者数

東條、後屋、永田地区住民 約 800人

③実動訓練参加者数

・水平避難 東條、後屋、永田地区の町会役員外 67人

④訓練シナリオ

20:00 「土砂災害警戒準備情報」発表

⇒ 「避難勧告」発令

20:05 町内の東條、後屋、永田地区住民約 **800** 人に避難勧告発令

⇒ 水平避難(東條、後屋、永田地区)避難協力施設「ふくの音」に一時避難開始
避難協力施設に避難者の受入を要請。

⇒ 避難者受入れ準備

20:10 施設に順次避難者が到着

⇒ 避難者受入れ対応(名簿作成、施設内への誘導)

20:30 避難完了。避難者数などを町に報告

20:40 O-DIS により大阪府に避難状況の報告

21:00 訓練終了



2) 特別養護老人ホームでの入居者の垂直避難訓練

①訓練概要

ア) 大阪府と町、防災関係機関との災害情報の伝達訓練

- ・大阪府(水防本部)から町役場に対して土砂災害警戒情報を発表

イ) 町による防災行政無線を活用した避難勧告に基づく住民避難

- ・入居者に対して防災行政無線による避難勧告
- ・夜間住民避難訓練の実施

土砂災害警戒区域内の特別養護老人ホームで要介護者が入居しており、水平避難が困難なため上階への垂直避難訓練

ウ) 訓練後アンケート調査などにより検証

- ・施設スタッフなどにアンケート調査を実施

②情報伝達訓練対象者数

入居者数 約 60人

③実動訓練参加者数

- ・垂直避難 入居者のうち1階入居者 21人

④訓練シナリオ

20:00 「土砂災害警戒準備情報」発表

⇒ 「避難勧告」発令

20:05 町内の東條、後屋、永田地区住民約 **800** 人に避難勧告発令

⇒ 垂直避難開始 施設入居者のうち

本館1階の15名を3階食堂へ垂直避難

別棟1階の9名を別棟2階食堂へ垂直避難

20:30 避難完了。町に報告

20:45 訓練終了



(5) 河南町

①訓練概要

- ア) 大阪府と町、防災関係機関との災害情報の伝達訓練
 - ・大阪府(水防本部)から市役所に対して土砂災害警戒情報を発表
- イ) 町によるエリアメールや防災行政無線を活用した避難勧告に基づく住民避難
 - ・町内全域にエリアメール／緊急速報メール及び防災行政無線による住民への避難勧告
 - ・夜間住民避難訓練の実施
 - 全戸対象の垂直避難訓練

②情報伝達訓練対象者数

全町民 約 1.6万人

③実動訓練参加者数

- ・垂直避難

10地区(大宝、東山、南加納、長坂、平石、寺田、鈴美台3丁目、さくら坂1丁目、下河内、青崩)の役員 計171人が集会所での垂直避難を実施
その他住民が自主的に実施

④訓練シナリオ

20:00 「土砂災害警戒準備情報」発表

⇒ 「避難勧告」発令

20:03 町内全域約1.6万人に避難勧告発令(エリアメール／緊急連絡メール)

⇒ 集会所などにいる10地区(大宝、東山、南加納、長坂、平石、寺田、鈴美台3丁目、さくら坂1丁目、下河内、青崩)の役員が垂直避難

⇒ その他住民、自宅などで「垂直避難」

20:30 訓練終了



3. 事前広報状況

訓練の実施に先立ち、さまざまなツールを使って広報を行い、本訓練のPR・府民周知を行った。

(大阪府)

- ・府政だより(6月号)への掲載
- ・大阪府ホームページへの掲載
- ・大阪府 Facebook への掲載
- ・道頓堀雪印メグミルクネオン
- ・スーパー銭湯待合室モニター
- ・知事定例記者会見(6/17)

(市町)

- ・広報紙、ホームページの掲載
- ・回覧等による住民周知
- ・防災行政無線での広報活動 など



府政だより (6月号)

4. 訓練結果

(1) 住民アンケート結果

1) 訓練参加住民（水平避難）

今回の訓練は、午後8時に土砂災害警戒情報を発表して、それを受けた各市町が避難勧告を発令。市町村は、エリアメール／緊急速報メールや防災行政無線を使って避難勧告を対象住民に発信し、住民が屋内での垂直避難の励行含む避難を行う形での訓練を実施した。また、訓練後に参加住民(岸和田市、和泉市、太子町)にアンケート調査を実施し、検証を行った。アンケート回答者は総数165名であった。

① 訓練の実施について

今回の夜間訓練について、大雨や土砂災害を想定した避難訓練に初めて参加した人の割合は**89%**であった。ほとんどの方が避難訓練に初めて参加されていた。意見として「勉強になった」「非常品の準備をすべきと感じた」「避難場所を知れてよかった」などの声があり、「訓練」を通じての住民の意識向上につなげることができた。

また、「まずは昼からの地域全体の訓練が必要」「訓練を定期的に行ってほしい」といった、日常の訓練の必要性を訴える意見もあった。

② 訓練開始合図

エリアメール／緊急速報メールや防災行政無線により訓練情報を受け取った方は、**90%**であった。うち届いたが気づかなかった方が**20%**。届かなかったと回答した方が**10%**。合わせて**30%**の方が、訓練情報を覚知できなかったと回答した。特に防災行政無線については、「無線が鳴らなかった」「無線が鳴っていることに気づいたが、何を言っているのかわからなかった」などの意見が多かった。実際の降雨時になると、更に聞き取りにくい状況が予測され、災害情報の住民への伝達方法についても工夫が必要と考えられる。

③ 避難時間

今回の訓練開始の合図を受けてからの避難時間について、「**5分未満**で家を出た」と答えた方が**48%**であった。半数近くの方が速やかに行動を取ったとみられる。一方で、もし家族全員で避難した場合の時間について回答を求めたところ、**65%**の方が「**10分以上かかる**」と回答しており、「**20分以上**」と答えた方も**22%**であった。

時間がかかる理由として、「家の戸締り」「持ち出し品の準備」などの避難準備に関する意見から、「家族、同居者に高齢者、子どもがいる」「外出中の家族との連絡」などの各家庭事情による意見があった。自らの命を守っていただく観点から同居の家族を含め、「まずは迅速な避難行動をとっていただく」ことの重要性を引続き、呼びかける必要性が確認された。

④ 夜間の避難について

今回の夜間避難について、「水路・側溝が見えない」「見通しが悪い」「一人ですることの不安」「避難者の互いが確認できる服装や照明器具が必要」という声が多くあり、夜間の避難を経験することで得られた「暗さ」に対する意見が多く出た。実際の発災危険時には必ずしも屋外への水平避難だけが避難行動・手法ではなく、家屋や周辺の地理状況を踏まえた屋内での垂直避難なども視野に入れた避難行動をとることが重要だが、屋外避難不可避の際の、安全避難への工夫の必要が、本訓練を通じ確認できた。

また、**40%**近くの住民が「避難してからいつまでそこにいればいいか不安」との回答があった。特に、地域版ハザードマップ等で決められた、地区の一時避難場所に避難した住民の方からは、「何もない場所で雨に濡れながらいつまでも待てない」など、一時避難をいつまで行うか、次の対応・行動に係る的確な情報提供をどうしていくかという課題が浮かび上がった。

⑤ 日頃の備えについて

今回参加された住民の方の日頃の備えとして、「避難所の確認」や「防災マップによる危険箇所の確認」については、半数以上の方が「確認したことがある」と回答された。また、「垂直避難」についての認知度は**69%**であった。平野部の市町村に比べて、土砂災害警戒区域などを有する市町であったためであろうか認識の高さが伺えた。一方、避難時の非常用持ち出し袋の常備率については、**60%**の方が「持っていない」と答えた。「家族全員分ある」と答えた方はわずか**8%**に留まった。多くの住民の方は、土砂災害の危険性の認識はもっておられるものの、災害が起こった時の備えについてはまだ十分とはいえないことが明らかとなった。

⑥ その他参加住民からの意見

今回参加された住民の方から、アンケートに加えて以下の意見があった。

- ・避難所が遠かった。
- ・高齢者には移動が少し厳しい(距離)と感じた。
- ・移動の時間が長かった。
- ・停電時にうまく避難できるか不安
- ・高齢者が避難用に乗っている車が識別できるように旗やシールがあるとよい。
- ・一時避難所までの移動手段として車いすも必要。
- ・ペットを飼っているので一緒に避難できるかわからない。家の中で飼っているのが危なくても家に残るかもしれない。

2) エリアメール／緊急速報メール受信住民（垂直避難）

今回、エリアメール／緊急速報メールを発信した市町(岸和田市、貝塚市、河南町)については、訓練終了後に、役所窓口等でアンケート調査を追加実施した。アンケート回答者は総数306名であった。

① 訓練事前浸透率

今回の夜間訓練についての、訓練事前浸透率(訓練開始時より前にこの訓練を知っていた者の割合)は、**74%**と比較的高かった。

訓練の事前周知については、各市町の広報や自治会への事前説明、防災無線などを活用した告知など各市町がさまざまな方法により、事前周知を行った効果が表れた結果となっている。

② 訓練開始合図

エリアメール／緊急速報メールにより訓練情報を受け取った覚知率は、**59%**であった。このうち、届いたが気づかなかった方が**10%**。届かなかったと回答した方が**31%**。合わせて**41%**の方が、訓練情報を覚知できなかったと回答した。なお、エリアメール／緊急速報メールの「災害・避難情報」に対する携帯電話の推計対応率は、平成**27**年**3**月末時点で携帯電話3社合計**80.1%**である。

今般、災害情報などを住民に発信する有効なツールとして、エリアメール／緊急速報メールが活用されているが、携帯電話の推定対応率と比較してもやや低い結果となった。

③ 避難行動

今回の訓練開始の合図を受けてからの行動について、「自宅の2階や近くの高い建物への垂直避難を行った。」と答えた方が**10%**であった。「市の防災マップで避難場所の確認を行った」と答えた方が**6%**、「災害時の事を家族で話し合うなどした。」と答えた方が**17%**、「災害時の状況をイメージした。」と答えた方が**20%**、合わせて**53%**であった。訓練開始合図の覚知率が**59%**であることから、訓練の合図を受け取った方の約**90%**の方が、何らかの行動を起こしていた。

④ 日頃の備えについて

今回参加された住民の方の日頃の備えとして、「防災マップによる危険箇所の確認」については、**77%**の方が「確認したことがある」と回答された。平野部に比べて土砂災害警戒区域などを有する市町であったためか認識の高さが伺えた。一方、避難時の非常用持ち出し袋の常備率については、**64%**の方が「持っていない」と答えた。「家族全員分ある」と答えた方はわずか**11%**に留まった。多くの住民の方は、土砂災害の危険性の認識はあるものの、災害が起こった時の備えについてはまだ十分とはいえないことが言える。

(2) 訓練参加市・町の意見

今回訓練に参加した、5つの市・町(岸和田市、貝塚市、和泉市、太子町、河南町)の危機管理担当職員からも今回の訓練についての意見を集約した。主なものは以下のとおりである。

(岸和田市)

- ・改めて、夜間避難の難しさを痛感。夜間に入る前の早い段階での注意喚起の必要性を実感した。
- ・これまでのエリアメールの訓練使用は日中に行うものだけであったが、今回初めて夜間に流した事により、メールに関する問い合わせがいつもより多く感じた。
- ・エリアメールの設定方法等の周知がもっと必要。
- ・一時避難場所への水平避難訓練箇所が山間部ということもあり、避難場所が非常に暗い。夜間避難時の懐中電灯などの常備の周知の必要性を実感。
- ・近隣市民からの苦情が多く入った。近隣市への周知をお願いしていたが、周知が不十分であったのでは。今後、府内一斉に訓練を行う際には、実施市町村以外の住民への周知は大阪府で確実に行って頂きたい。
- ・今回の訓練が、昨年度の他県の実被害を基にした重要度の高い訓練であったにもかかわらず、参加市町村が非常に少なかった。単に市町村の意識の差と片づけるのではなく、その原因・要因を検証して今後の訓練企画に活かしてもらいたい。

(貝塚市)

- ・緊急速報メールを受信した近隣市町の住民からの問い合わせが多かった。訓練趣旨を説明して納得してもらったが、市町村間でこうした訓練の必要性について温度差があると住民への説明も難しくなる。今後市町村間での温度差をなくし、府内全体で実施できるよう大阪府から働きかけてほしい。
- ・土砂災害警戒情報のFAXが時間通りに届かなかった。FAX通信時に他の受信情報が入っていると受信待機状態になり受信が遅れるケースもあると聞く。実際の災害時に情報が遅れると、判断の命取りとなる。情報の取得方法と多重化の必要性を感じた。
- ・緊急速報メールは即時性が重要。あらかじめパターン化して即座に送信できるようにしておくこと、訓練を通じて、担当職員の誰もが送信できるようにしておくことが重要と感じた。

(和泉市)

- ・今回の訓練において、一番多く出た意見が「避難所までの距離が遠い」という意見。今回の訓練対象地域での指定避難所特有の事情はあるが、現時点で即座に避難所の変更を行うことは難しいため、避難方法等やその他の施設の活用等について引き続き検討が必要であると感じた。
- ・非常用持出袋の用意等、日ごろから災害に備えている世帯がまだまだ少ないということもわかり、自助に対する啓発についても強化していかなければいけないと感じた。
- ・今回の訓練を通して、新たな課題が多く見つかったことだけでなく、実際に参加された方からの意見として「訓練が良い経験になった」という意見が多くあったため、今後も継続してこのような訓練を行っていくことができると考える。

(太子町)

- ・土砂災害に伴う避難勧告発令については、マニュアル整備により、迷うことなく『機械的な』判断がしやすくなったが、土砂災害警戒準備情報から警戒情報までの時間差が無い場合が多い。避難勧告発令と避難所開設のタイムラグをいかに埋めるかが課題。
- ・災害対策本部(警戒本部)の立ち上げ、運用における方針決定から実際の対応に至るまでについて、担当職員が少ないため、1つ1つの作業に時間を要することが多かった。
- ・避難場所、避難所の指定は終えているが、避難所やそこに至る避難経路の調査・整備等は未着手な部分が多く今後の課題。
- ・現実に夜間の避難となった場合、的確に避難場所が住民に伝わるかが問題。町が戸別受信機を設置しているにもかかわらず、スイッチを切っていたりする場合があると聞く。今回の訓練でも放送が確認できなかったという住民の声がアンケート結果で見受けられた。自主防災組織を核とした広報活動や地域での訓練の充実により、平常時からの周知が必要であると感じた。

(河南町)

- ・避難判断マニュアルでは避難準備情報、避難勧告、避難指示について、判断基準を記載しているが、避難行動要支援者の避難を考えた場合、要支援者や支援者に対し、避難準備情報よりも前に避難準備体制を整えるように周知する必要がある。
- ・訓練において緊急速報メールの使用に伴い、町内での啓発は行ったが、隣接市町村や隣接府県の市町村への連絡は十分行えなかった。

5. 今回の訓練検証及び今後の対応

(1) 行政の対応

① 屋外避難時の暗さへの対策

住民からの意見が多かった「暗さ」への対応については、防犯灯、誘導灯の設置による避難路の照度の確保などのハード対策や、地元消防団員や自主防災組織などが協力して避難所までの誘導を行う地域における防災リーダーの育成・確保や避難ルールの明確化などのソフト対策を検討し、今後、地域の実情に応じて具体化していくことが求められる。

② 早期避難誘導及び垂直避難の推奨

気象情報などにより、夜間に大雨など災害の危険性が予測される場合は、日没までの時間帯に避難準備情報を発令するなど、住民に対し早めに避難行動を呼びかける措置が重要である。やむを得ず夜間に避難勧告等を発令する場合は、普段から指定避難所への避難だけでなく、山から離れた2階以上の高い所への「垂直避難」を行うという選択もあることを平時から徹底した上で、災害の危険予見時にそうした呼びかけも行うなど、住民が一定の時間的余裕と選択の幅を持って、慌てることなく災害から身を守る行動を取るよう誘導する。

また、一時避難場所は、降雨時の長時間の避難には向かないため、行政として早めに次の避難行動を誘導するためのルールづくりが求められる。

③ 住民意識の向上

住民から、日常の訓練の必要性を訴える声が多く上がった。住民の防災意識を向上のためには、昼夜を問わず訓練の実施が必要である。今回は5つの市・町のみであったが、府域各地で繰り返し夜間訓練を実施することで、夜間避難の難しさを市町村及び住民が共に認識し、早めの避難勧告発令の後の適切な避難行動に活かしていくことが必要である。

このため、府も引き続き、市町村と共同して、風水害等に伴う様々な災害リスクを想定した訓練を行う。また、市町村においても地域の実情に即した住民との協働による避難訓練の充実が求められる。

また、日頃から広報などを通じて、住民に対して非常用持ち出し袋や懐中電灯、反射ジャケットなど、避難に対する備えを周知しておくことも重要である。

(2) 住民の対応

今回、夜間訓練を通じて夜間の避難の難しさの認識を深めて頂くなど防災(避難)意識の向上が一定図られてきており、今後も市町村や自主防災組織などが行う各地域での夜間等の訓練への参加が望まれる。

また、台風などの気象情報や市町村の避難情報等に常に注意し、早めの避難を心がけるとともに、普段から、避難場所や避難経路を家族とよく話し合っ確認したり、非常用持ち出し袋の準備をあらかじめ済ませておくなど、日頃から万一の深刻な災害発生時においても『命を守れる』よう備えをして頂くことが大切である。

<参考1>

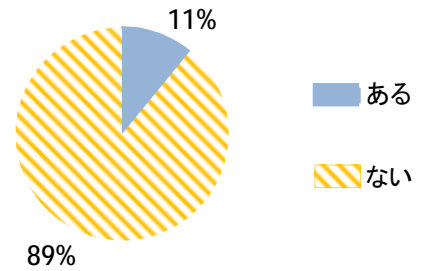
平成27年度 風水害夜間実働訓練 アンケート結果(水平避難編)

問1: 今回の夜間訓練についてお聞きます。

1-① これまで、大雨や土砂災害を想定した避難訓練に参加したことはありますか。

□ある 18人
□ない 147人

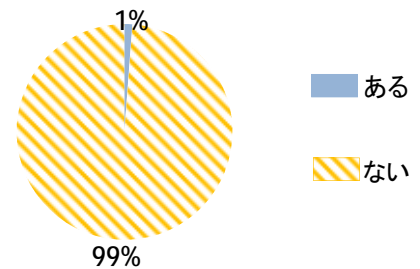
n= 165



1-② 夜間の避難訓練に参加したことはありますか。

□ある 2人
□ない 164人

n= 166

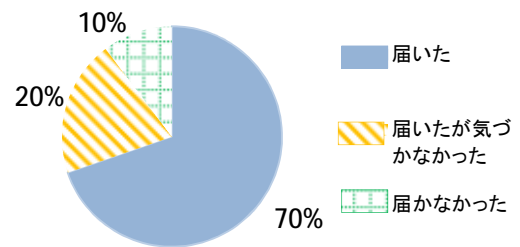


問2: 今回の訓練内容についてお聞きます。

2-① お手元の携帯電話に、訓練のための緊急速報メール(防災無線)は届きましたか。

□届いた 115人
□届いたが気づかなかった 33人
□届かなかった 17人

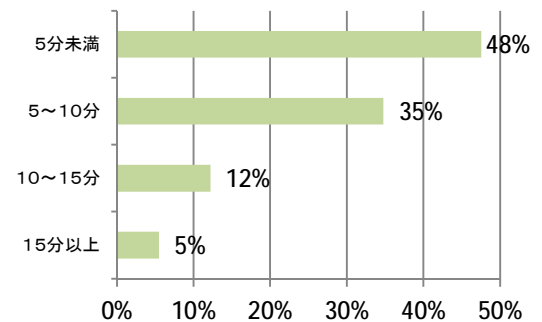
n= 165



2-② 市(町)から避難勧告があったあと、家を出るまでどの程度の時間がかかりましたか。

□5分未満 78人
□5~10分程度 57人
□10~15分程度 20人
□15分以上 9人

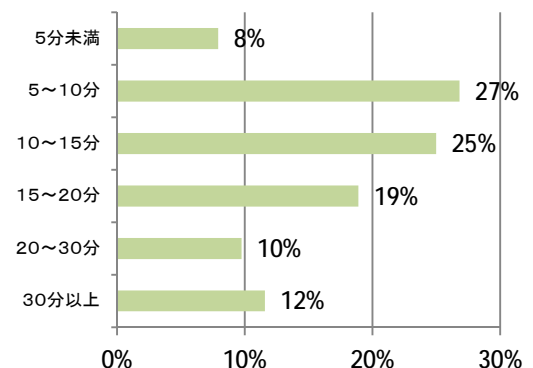
n= 164



2-③ もし、避難勧告を受けて一緒にお住いの家族全員で避難する場合、どの程度の時間がかかるとおもいますか。

□5分未満 13人
□5~10分程度 44人
□10~15分程度 41人
□15~20分程度 31人
□20~30分程度 16人
□30分以上 19人

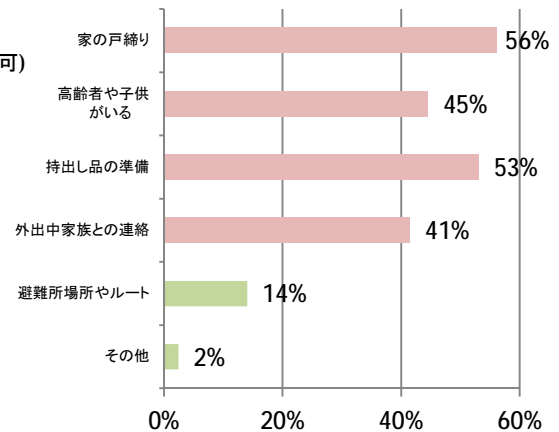
n= 164



2-④ 今回の避難訓練に参加してみて、実際に避難勧告が発令されて避難する際、どんなことに時間がかかるとおもいますか。

(複数回答可)

<input type="checkbox"/> 家の戸締り	92 人
<input type="checkbox"/> 家族(同居者)に高齢者や子供がいる	73 人
<input type="checkbox"/> 持ち出し品の準備	87 人
<input type="checkbox"/> 外出中の家族との連絡	68 人
<input type="checkbox"/> 避難所の場所やルートの確認	23 人
<input type="checkbox"/> その他	4 人
	n= 164



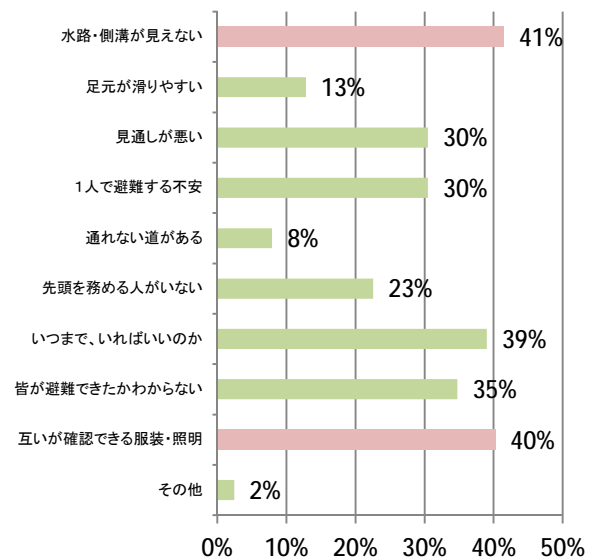
◇その他の主な理由

- ・ガスの元栓確認
- ・アイロンの確認、蚊取り線香の始末、等
- ・ペットの周辺始末に時間が必要

2-⑤ 実際に夜間に避難してみて、どのような問題点に気づかれましたか。

(複数回答可)

<input type="checkbox"/> 水路・側溝が暗くて見えない	68 人
<input type="checkbox"/> 足元が滑りやすい	21 人
<input type="checkbox"/> 見通しが悪い	50 人
<input type="checkbox"/> 1人で避難することの不安	50 人
<input type="checkbox"/> 通れない道がある	13 人
<input type="checkbox"/> 先頭を務める人がいないと不安	37 人
<input type="checkbox"/> 避難してからいつまで、そこにいれればいいか(安全か)不安	64 人
<input type="checkbox"/> 家族や近所などの皆が避難できたかわからない	57 人
<input type="checkbox"/> 避難者の互いが確認できる服装や照明器具が必要	66 人
<input type="checkbox"/> その他	4 人
	n= 164



◇その他の主な理由

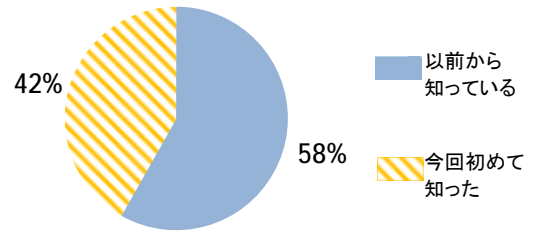
- ・体力が心配、避難所が遠い
- ・車椅子があるといい
- ・車移動で、良くわからない

問3: 日ごろの備えについてお聞きます。

3-① 避難所は知っていましたか。

- 以前から知っている 89 人
- 今回の訓練で初めて知った 64 人

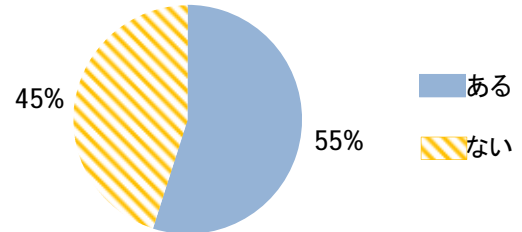
n= 153



3-② 市が発行している防災マップなどで危険箇所などを、これまで確認したことはありますか。

- ある 84 人
- ない 69 人

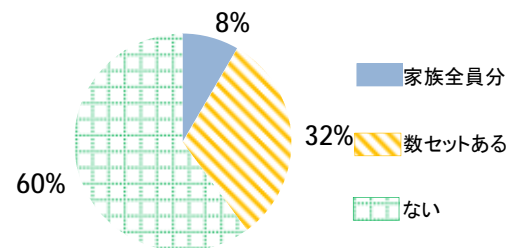
n= 153



3-③ 避難時の非常用持ち出し袋は用意してありますか。

- 家族全員分ある 13 人
- 数セットある 49 人
- ない 93 人

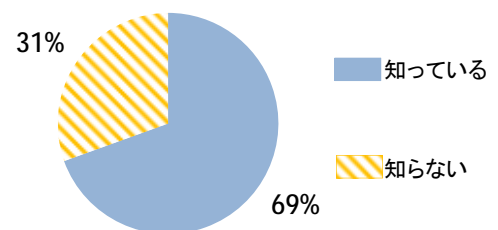
n= 155



3-④ 洪水や土砂災害の恐れのある際に、避難所への避難のために屋外に出ることが、かえって危険な場合、自宅や隣接の建物の2階以上(土砂災害であれば斜面と反対側の2階以上の部屋)に避難した方が安全を確保できることを知っていますか。

- 知っている 107 人
- 知らない 47 人

n= 154



◇今回の訓練に関するご意見・ご感想等あればご自由に記載ください。

○ プラス意見

- ・勉強になった。
- ・非常品の準備をすべきだと感じた。
- ・訓練に参加したことでいろんな改善点が見つかった。
- ・誘導が良かった。
- ・訓練を定期的に行ってほしい。
- ・避難場所を知れてよかった。

○ 問題点等

- ・とにかく暗い。大雨で水路から水が溢れれば、間違いなく落ちると感じた。(道路幅も狭い)
- ・街灯の不備から太子町全体が暗いと思う。せめて避難経路は明るくしてほしい。
- ・水利として参加したので、回答できない間がある。町会から3人の参加者を確認したが、各人とも本日の避難場所は適していない。
- ・避難勧告の無線が鳴らなかった気がしたが、この辺の防災無線の徹底を今一度確認していただき、住民にははっきりと理解してもらえるよう万全を期してほしい。
- ・ペットを飼っているの皆さんと一緒に避難できるか分からない。家の中で飼っているの、危なくても家に残るかもしれない。
- ・避難場所が遠い。
- ・高齢者には少しきつように思う。
- ・先頭を務める人がいないこと
- ・はじめての避難訓練なので、戸惑った。
- ・防災無線が鳴っていることに気付いたが、何を言っているのかわからなかった。
- ・移動の時間が長かった。
- ・停電時が不安。

○ 要望、他

- ・高齢者が乗っている車が判断できるように旗とかシールがあると良い。車椅子も必要。
- ・訓練という意識があり、あまり実感がわかなかったが、現実に体験したら怖いと思う。
- ・集合時、高齢者や足に不安のある人が多い中、立たせたままあの挨拶は配慮が足りない。
- ・まずは昼からの地域全体の訓練が必要。
- ・街路灯があるが、停電時は問題。太陽光発電照明が必要。
- ・ふくの音の施設が避難場所として提供していただいたことは知らなかった。
- ・家族との連絡方法を定める。
- ・訓練参加者に訓練内容をわかるようにしてほしい。
- ・もう少し、テキパキしてほしい。

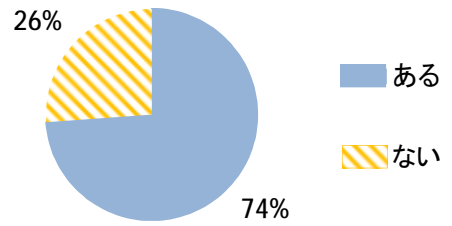
<参考2>

平成27年度 風水害夜間実働訓練 アンケート結果(垂直避難編)

Q1 あなたは、6月20日に夜間訓練が実施されることを事前に知っていましたか。

- 知っていた 226 人
- 知らなかった 80 人

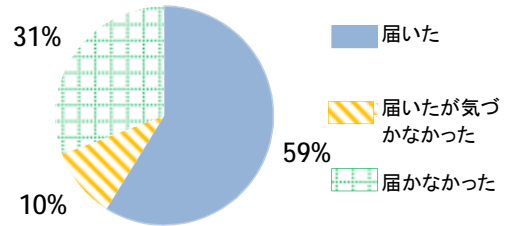
n= 306



Q2 お手元の携帯電話に、訓練のための緊急速報メール(エアメール)は届きましたか。

- 届いた 180 人
- 届いたが気づかなかった 32 人
- 届かなかった 94 人

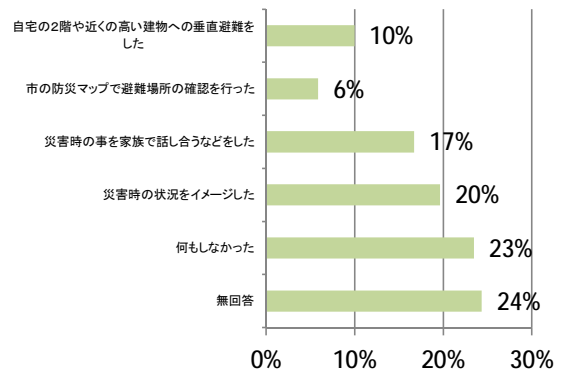
n= 306



Q3 緊急速報メール(エアメール)が届いた方にお聞きします。緊急速報メール(エアメール)の内容を見てどのような行動を取られましたか。(複数回答可)

- 自宅の2階や近くの高い建物への垂直避難をした 34 人
- 市の防災マップで避難場所の確認を行った 20 人
- 災害時の事を家族で話し合うなどをした 57 人
- 災害時の状況をイメージした 67 人
- 何もなかった 80 人
- 無回答 83 人

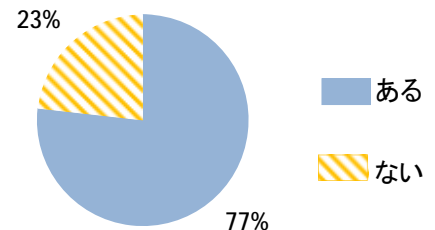
n= 341



Q4 市が発行している防災マップなどで危険箇所などをこれまで確認したことがあるか。

- ある 235 人
- ない 71 人

n= 306



Q5 避難時の非常用持出袋は用意してありますか。

- 家族全員分ある 35 人
- 数セットある 74 人
- ない 197 人

n= 306

